

# 2024年度 病院経営の状況

令和 8 年（2 0 2 6 年）1 月 2 1 日  
平塚市病院運営審議会  
経営企画課

# 【2024年度】全国の病院経営状況

## ◆過去20年で最悪の水準

2024年度の日本の病院経営は、過去20年で最悪の水準に陥っており、非常に厳しい状況。民間病院の過半数が営業赤字で、債務超過に陥る病院も増加している。

## ◆債務超過の割合

約14%の病院が債務超過に陥り、前年度から大幅に増加してる。これは、高額な医療機器の導入による借入金負担が増える一方で、十分な収益が確保できないことが主な原因。

## ◆医業利益率

2024年度の医業利益率は平均マイナス7.2%と、前年度のマイナス6.6%からさらに悪化している。医業利益が赤字の病院の割合は73.8%に達し、経常利益も悪化傾向にある。

## 【2024年度】大学病院の経営状況

### ◆2024年度の大学病院経営は厳しい状況

全国の大学病院(81病院)の経常損益は合計で508億円の赤字で、前年度から340億円悪化しており、経常赤字率は1.5%と、前年度の0.5%から1.0ポイント悪化してる。

#### ●赤字の内訳

設立主体	病院数	経常損益	黒字病院数	赤字病院数
国立	42	▲286億円	12	30
公立	8	▲91億円	1	7
私立	31	▲131億円	11	20

### ◆国立病院は大幅に悪化

国立大学病院の2024年度の経常損益は285億円のマイナスとなり、2023年度のマイナス60億円から大幅に悪化した。

# 【2024年度】自治体病院の経営状況

## ◆赤字経営の現状

全国自治体病院協議会の調査によると、2024年度には自治体病院の**86%**が経常収支赤字、**95%**が医業赤字に陥っている。

また、総務省の発表では、全国678の公立病院事業全体の経常収支は、過去最大の**3,952億円の赤字**となり、赤字病院の割合は**83.3%**だった。

これは2023年度の赤字額である2,099億円から大幅に増加している。

## ◆病院規模別の影響

以前は中小規模の病院に赤字が集中する傾向があったが、2024年度の調査では、400床以上の急性期医療を担う**大規模病院ほど赤字が拡大**していることが分かっている。感染症指定医療機関やへき地医療拠点病院、災害拠点病院、救命救急センターなど、政策医療を担う多くの病院が赤字に直面している。

## 【自治体病院】今後の見通しと要望

### ◆今後の見通しと要望

全国自治体病院協議会の望月会長は、2025年度も経営状況はさらに厳しくなるとの見通しを示しており、このままでは地域の基幹病院の医療機能維持が困難になり、医療崩壊につながる危険性があると警鐘を鳴らしている。

この状況に対し、自治体病院側は以下の対策を国に要望している。

- ・診療報酬の大幅な引き上げ(特に人件費高騰をカバーするため)
- ・病院建設費補助単価のさらなる引き上げ
- ・不採算医療(小児、周産期、救急など)を担う病院への財政措置の拡充
- ・医療材料費や医療機器・保守委託費に係る消費税のゼロ税率適用または課税売上への変更

## 県・国からの支援

### ◆病院経営緊急支援金(神奈川県)

救急病院(県立を除く)に対し稼働病床1床あたり一定額を給付

### ◆医療・介護等支援パッケージ(国補正予算)

- ・賃上げ・物価上昇に対する支援

基礎的支援として1床あたり合計19.5万円が交付  
(内訳:賃金分8.4万円、物価分11.1万円)

- ・救急医療に対する支援

- ・その他「ICT機器導入による生産性向上支援」「産科・小児科への支援」あり



## 補正予算への評価

日本医師会は、今回の補正予算案について「医療界全体による切実な訴えが大きく実を結んだ」と評価しているが、補正予算はあくまで一時的な「止血」であり、2026年度の診療報酬改定で物価高騰や賃上げに対応した「根治治療」が必要であるとの見解も示している。

2026年度診療報酬改定の内容に注視していく